



春の図書館見学会レポート 市川市中央図書館・市川図書館友の会を訪問しました

5月25日(土曜)初夏の好天のもと、図書館見学会に行ってきました。今回訪れたのは、千葉県市川市の中央図書館。そこで活躍する市川図書館友の会の皆さんとの交流会も行いました。



市川市中央図書館は生涯学習センター「メディアパーク市川」の中にある、市の中核図書館です。1994年に建てられた施設はたくさんの丸い大きな窓や円錐形のトップライトを配した重厚な印象。館内を案内してくれた米田館長によると「バブル期の産物」とのお話でしたが、なるほどレンガや大理石を施したフロアや内装、自然光を採り入れた間接照明など、上品で落ち着いた雰囲気のある豪華な建物でした。

私が気に入ったのは、入口から真っすぐ伸びた通路。メインカウンターと書架との間に取られた広いスペースは、まさに館内のメインストリートです。見上げた天井は高い吹き抜けになった堂々とした眺めで、そこを通りながら図書館への期待感を膨らませるに相応しい空間だと感じました。

右の写真は、中庭「水の広場」に建つ「天知人」という銅製の本のモニュメント。世界的グラフィックデザイナー福田繁雄氏によるもので、高さは17メートル、153冊の本が積み上げられているとのことでした。



見学の後は、L.V.S.と同じように、この図書館でボランティアを行う図書館友の会の皆さんと交流会を行いました。押樋^{おおとい}会長のユーモアあふれる軽妙な進行で話し合いは和やかに進みました。友の会のモットーは「図書館の応援団」であること。「図書館にモノ言う」のではなく、いつも「図書館のタメ」を意識することが、これまで続けてきたポイントだとのお話でした。

主な活動は、排架や書架整理・利用者への案内・閉架書庫からの図書さがし・リサイクルブック市の応援・会報発行など。ボランティアとしての作業内容をひとつひとつ明確にして決めたそうです。これまでいくつかの図書館友の会と情報交換してきましたが「図書館へのサポートをしながらも、図書館の施設や資料を使って自分たちの学習会や発表会も運営する」という団体もあった中で、市川の場合は、純粋に「図書館に必要なボランティア」だけに特化しているという印象でした。

この日、L.V.S.の参加者は15名。自分たちの日頃の活動について発表しました。特にブックサポート部は活動に共通する部分が多くて、良い情報交換ができたように感じました。友の会からは、にほんごひろばや集まれ！交流の会についての関心が高く、部の立上げのきっかけや具体的な活動の様子について質問がありました。

会員の確保や活動のマンネリ化防止など、抱える課題についても共有。今後お互いに交流を続けていくことを約束しました。



図書館見学会のお楽しみは、近場の文化施設や観光地にも立ち寄ること。今回は市川市東山魁夷記念館を訪問しました。20世紀を代表する日本画家・東山魁夷は1945年から亡くなる1999年まで市川市で過ごしました。

記念館は、日本画家らしからぬ欧風建築。東山の人間形成や芸術に影響を与えたドイツの建物をイメージしたとのことでした。展示室には絵画の他に、東山作品をモチーフにした緞帳の製造過程なども紹介されていました。